■■各務原市立稲羽西小学校学校だより■Ｎｏ．４■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

稲西っ子

学校の教育目標
「豊かな心で　ねばり強く　やりぬく子」
○よく考える子【知】
○認め合い高まる子【情・意】
○進んで体を鍛える子【体】

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■令和３年７月 12 日 発行■■

○自己有用感、自己肯定感を育てる！

子ども達の自己有用感、自己肯定感を育むことを学校教育の重点にして取り組んできています。ボランティア手帳の取組は、その手立ての一つとして、子ども達に深く浸透してきていると感じています。「誰かの役に立てるように」といった願いをもつことはもちろん、しっかりと行動できる力も備わってきていると感じています。本日までに150名がボランティア50回（手帳1冊）を達成しています。中には650回（13冊）を達成している子もいます。

ボランティア手帳が50回に達したら、校長室に手帳を持ってきます。にっこりと笑顔を添えて「50回達成しました。」と伝えてくれる子ども達に、「おめでとう。よく頑張ったね。」とねぎらいの言葉をかけ、「何が一番心に残っているかな」と声かけをします。すると、「ゴミ拾いをしたら、お母さんが喜んでくれたことかな。」などと返してくれます。わずかな時間ではありますが、子ども達一人一人と会話をしています。「次もがんばってね」の声かけに、「はい。また持ってきます。」と弾むような声が返ってきます。

50 回達成者の紹介掲示

コロナ禍の制約から、学校や家庭でできることが、活動の中心となっています。玄関掃除をしたり、草引きをしたり、ゴミを拾ったり、お茶碗を拭いたり・・・。子ども達なりに行動したことに、おうちの方が「ありがとう。」「助かるわ。」「うれしいよ。」といったご自身の感じた気持ちを素直に伝えていただけるので、相手の気持ちに気づいたり、人の役に立てたことを喜びや誇りに感じたりして、さらにがんばってみよう、もっと取り組みたいと積極的にそして自信をふくらませているようです。ご家庭でのご支援、ご協力があるからこそです。ありがとうございます。今後も誰かの役立ててうれしいという「自己有用感」を膨らませ、「自分も他人も大切」と思える子に育てていきたいです。どうぞよろしくお願いします。

○緊急時の対応として・・・

熱海市での土砂災害に心を痛めております。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、安否不明の方々の一日も早い救助、そして被災されました方々に深くお見舞い申し上げます。また、現場にて日夜救助、復旧に務めていただける方々に深く感謝申し上げます。災害はどこでも起きる可能性があります。本校校区におきましても風水害のみならず、大地震への備えは重要になってきます。

令和元年８月に、学校の西門を拡張する工事を行い、自動車での出入りを可能にしています。（通常は黄色の車止めがしてあります）これは、緊急時の引き渡し、災害時の避難等でグラウンドに自動車を入れる必要がある時、北東門周辺の市道の渋滞、交通事故の危険性を回避するためです。

グラウンドへ自動車を入れる場合は、**北東門から進入、西門より退出する一方通行**としています。保護者の皆様には、授業参観時にこのように出入りしていただいていますので、この方式が定着してきているかと思います。今後、気象災害や大地震による引き渡し、学校が避難所となる場合を想定した引き渡しも念頭に置いておかなければなりません。ハザードマップを見ると、小学校は浸水想定区域に指定されており、避難所にはなりません。引き渡しを行う際は、浸水している場合は、自動車でのお迎えは避けていただきますようお願いします。また、大地震による引き渡しにつきましても、二次災害に遭われる危険性を考慮し、徒歩でのお迎えを考えていただきますようお願いします。稲羽中学校区学校運営協議会から、小中合同引き渡しシミュレーション訓練を防災の日である９月１日（水）に行うことを計画しております。実際に引き渡しは行いませんが、「もしものとき」の行動を各自がシミュレーションしていただきます。災害時に、稲羽地区全体がスムーズな行動がとれるよう考える機会としてとらえてもらえるとありがたいです。詳細は後日配布される案内をご覧ください。